

社団法人小江戸川越観光協会設立趣意書

1 設立の趣旨

川越市観光協会は、発足以来川越市の観光振興のために多くの事業を推進してまいりました。

昨今では、「小江戸川越」という呼び名も定着し、関東でも日光、鎌倉に次いで歴史的史跡を残す川越の街並を訪れる観光客も年々増加し、年間400万人もの人が訪れるようになりました。

しかし、経済・産業面における国際化、情報技術の急激な進展は、社会構造の変化を大きく加速させ、本市の商業・工業・農業などの産業分野にも大きく影響を与えており、観光を活かした産業の活性化が必要であります。

今、求められているのは、物質的な豊かさだけでなく「ゆとり・文化・生きがい」という精神的な豊かさであり、この充足に対するニーズは一層高まってきております。

さらに、本市におきましては、先人が残した歴史的建造物や「川越まつり」を代表とする歴史的文化的重要な行事につきましても、後世に残さねばならない大切な財産として位置づけるとともに貴重な観光資源として捉え、その保存・保全・活用に努めることが必要不可欠な責務であると考えます。

このような社会の変化に対応していくために、本会としても観光振興事業の積極的な進展と機動性豊かな事業展開が求められるとともに、組織の一層の拡充が急務となっております。

また、現行の行政主体の観光協会から、民間主導型の社団法人へ移行することにより、さらなる地域の活性化へと繋げ、行政・民間が一体となって観光都市を目指します。

2 設立申請に到るまでの経過

川越市観光協会は、昭和34年12月16日に発足し、川越市の観光振興のために多くの事業を推進してまいりました。

歴史的伝統行事の代表格である「川越まつり」や小江戸川越春まつり、小江戸花火大会、初大師等への積極的な協賛・後援など、川越市の観光のために様々な形で協力してまいりました。

そのなかで、平成6年頃から会員の中で「観光協会を法人化し、積極的に民間活力を導入し、官民一体となった観光協会への移行を」と言う声の高まりにより検討委員会を発足し、これを足掛かりに法人化への道を模索し始め検討を重ね、その後設立準備委員会の発足に到り、法人化を目的とした協議を重ねてまいりました。

3 事業の必要性

昨今では、余暇時間の増大に伴いテレビなどのメディアによる旅番組等の情報やインターネットの普及による情報網の飛躍的な進歩があり、観光客の要求を満たすために、きめ細かな対応が求められております。

会員や観光客の多種多様なニーズに迅速に、かつ、臨機応変に対応するために、現行の観光協会から、さらに一歩進んだ観光協会への転換を図るためにも、一層の事業の拡充を図りたいと考えております。

4 その他

こうした情勢を鑑みまして、ここに当川越市観光協会は、会員の総意を持って社団法人小江戸川越観光協会への改組を行い、会員相互の緊密な連携並びに観光事業の積極的な推進を図り、市民本位な組織として社会的信用とその公益性を発揮することにより、地域経済の発展に寄与し、高齢化・国際化社会に対応した、川越市の将来都市像である「自然と歴史を生かし、市民がいきいきと新しい暮らしを創造するまち」の実現に寄与していこうとするものであります。